

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	5C004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	和田あずさ他 (2004) 『Global Gate Intermediate -Video-based Four Skills Training-』					
担当教員	小菅 智也					
到達目標						
・4年次までの既習事項を含め、基本的な文法事項を再確認して、学生生活、テクノロジーと生活など様々な状況に当てはめて運用することができる。 ・身近な話題からテクノロジーに関するものまで多様なテーマを扱う英文で用いられている構文・表現を学ぶことで、読解力（リーディング力）を深めることができる。 ・日常生活からテクノロジーまで多様なテーマを扱う音声聞き、音読み、会話の練習問題を解くを通して、リスニング力とスピーキング力を培うことができる。 ・学んだ内容を参考にして、ある程度まとまりのあるライティングができる。 ・テキストの重要語彙が理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基本的な英文法を、様々な状況に当てはまることことができる。		基本的な英文法を、様々な状況にある程度当てはまることことができる。		基本的な英文法を、様々な状況に当てはまることできない。	
評価項目2	様々な構文・表現がよく理解できる。		様々な構文・表現がある程度理解できる。		様々な構文・表現が理解できない。	
評価項目3	場面や内容について、リスニングとスピーキングができる。		場面や内容について、ある程度リスニングとスピーキングができる。		場面や内容について、リスニングとスピーキングができない。	
評価項目4	読んだ内容に基づき、ライティングができる。		読んだ内容に基づき、ライティングがある程度できる。		読んだ内容に基づき、ライティングができない。	
評価項目5	テキストの重要語彙がよく理解できる。		テキストの重要語彙がある程度理解できる。		テキストの重要語彙がある程度理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の各ユニットで取り上げられている題材について、アウトプットを中心とした学習活動をおこない、総合的な英語力の向上を目標とする。					
授業の進め方・方法	毎回の授業は主に以下の流れで進めていく予定である。 1. 前回の課題の解説 2. 動画の視聴、内容の確認 3. 各Unitの文法事項を用いた条件英作文 4. 各Unitのテーマに関する自由英作文 5. 作文した内容の口頭発表 上記に加え、適宜英文読解の時間を設けるほか、都度小テストを実施する予定である。					
注意点	本科目は学修単位科目であるため、自学自習を計画的に進めること。 毎回の授業に辞書を持参すること（スマートフォン不可）。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Unit 1	授業概要を理解する。 映画製作に関する動画を見て内容が理解できる。		
		2週	Unit1	to不定詞を用いた英作文ができる。		
		3週	Unit2	芸術に関する動画を見て内容が理解できる。		
		4週	Unit2	後置修飾を用いた表現を使い英作文ができる。		
		5週	Unit3	学校に関する動画を見て内容が理解できる。		
		6週	Unit3	接続詞を用いて英作文ができる。		
		7週	Unit4	スポーツに関する動画を見て内容が理解できる。		
		8週	前期中間試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。		
	2ndQ	9週	答案返却	観光案内について話すことができる、宿泊施設の紹介文を書くことができる。		
		10週	Unit4	現在完了形を用いて英作文ができる。		
		11週	Unit5	医療に関する動画を見て内容が理解できる。		
		12週	Unit5	動名詞を用いて英作文ができる。		
		13週	Unit6	ボランティア活動に関する動画を見て内容が理解できる。		
		14週	Unit6	第5文型を用いて英作文ができる。		
		15週	前期定期試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。		
		16週	答案返却 振り返り	これまでの学習項目が概観できる。		
後期	3rdQ	1週	Unit7	病気に関する動画を見て内容が理解できる。		
		2週	Unit7	助動詞を用いて英作文ができる。		
		3週	Unit8	感情に関する動画を見て内容が理解できる。		

		4週	Unit8	過去形・過去進行形・過去完了形を用いて英作文ができる。
		5週	Unit9	計画の枠組みを話し合う表現が英文が理解できる。
		6週	Unit 9	計画の詳細情報を説明する・尋ねる表現が理解できる。
		7週	Unit10	買い物に関する動画を見て内容が理解できる。
		8週	後期中間試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。
	4thQ	9週	答案返却	問題を特定する表現が理解できる。
		10週	Unit10	比較級・最上級を用いて英作文ができる。
		11週	Unit11	劇に関する動画を見て内容が理解できる。
		12週	Unit11	関係代名詞を用いて英作文ができる。
		13週	Unit12	義肢に関する動画を見て内容が理解できる。
		14週	Unit12	態を意識して英作文ができる。
		15週	後期定期試験	既習学習事項が理解でき、その応用ができる。
		16週	答案返却 振り返り	これまでの学習項目が概観できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	

評価割合			
	定期試験	課題など	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50